

Z39.50におけるデータベース選択支援機能の実現

石塚研究室
江草由佳

研究の背景

- Z39.50
 - 情報検索のための通信プロトコル
 - Z39.50を利用することにより異なるシステム間での相互利用が可能
- 様々なZ39.50データベースの存在^[6]
 - OPAC
 - 書誌データベース
 - 全文検索システム (Abstract, 新聞記事)
- 接続データベースの選択が困難
- 既存のクライアントはデータベース選択支援機能がない。

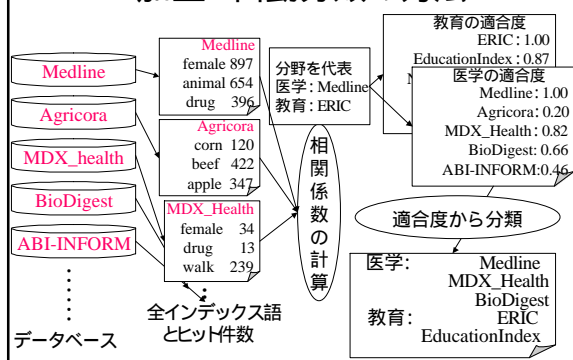
研究の目的

- データベース選択支援
 - データベースに接続するために必要な情報の収集・加工・流通・利用をひとつの流れで行えるシステムの開発
- 収集
 - データベースの存在
- 加工
 - データベースの内容
- 流通
 - データベース接続情報を相互利用
- 利用
 - データベース接続情報の表示
 - データベース検索

データベースに接続情報の収集・加工

- 収集
 - データベース接続情報
 - ホスト名、ポート番号、データベース名
 - データベースに関する情報を収集・公開しているサイトから取得
- 加工
 - データベースをサーバごとに並び替える
 - データベースを分野ごとに自動分類
 - よく使うデータベースをまとめる。

加工：自動分類の方法



データベース接続情報の流通・利用

- 流通
 - WWWの枠組みを利用
 - Z39.50用URL
書式) z39.50s://ホスト名[:ポート番号]/データベース名
例) z39.50s://lib.ulis.ac.jp:210/opac
 - HTML + HTTP
- 利用
 - WWWブラウザの開発
 - Z39.50クライアントの開発

